

橋梁長寿命化修繕計画

橋梁長寿命化修繕計画の内容

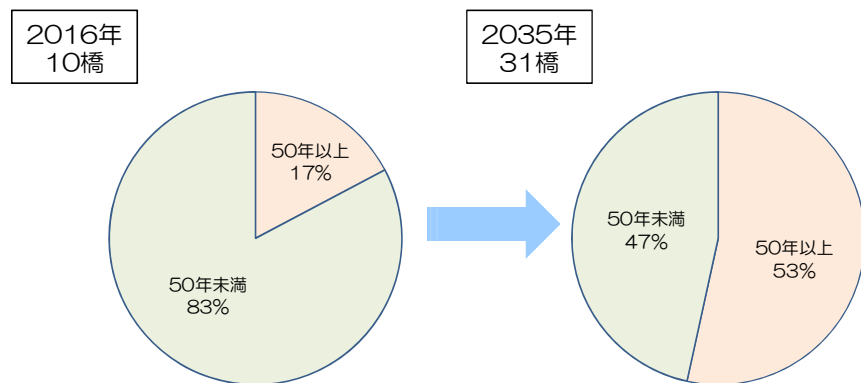
橋梁は長い年月の間、人や自動車の荷重を受け続けます（外力による劣化・損傷）。また、コンクリートや鉄の塗装なども永久ではなく、自然に劣化してゆくものです（経年劣化）。道路管理者が行う維持管理では、これらの劣化や損傷を、できるだけ未然に防ぐと同時に、維持管理にかかるコストを引き下げることが要求されます。

現在では、多くの研究から修繕などの対策は、劣化や損傷の進行が早い段階で行うことが効果的で、かつ経済的であるということが分かっています。これは、人の健康管理に非常によく似ています。このため、“悪くなってから治す”という待ちの姿勢ではなく、橋梁を点検し、劣化や損傷の原因を内在している時点から発見し、予防的措置をとることが、維持管理のコストを引き下げだけでなく、災害や事故を未然に防ぐことにもつながります。

そこで、橋梁の点検や補修の時期などについて方針を定めたものが橋梁長寿命化修繕計画です。

長寿命化修繕計画の目的

広川町は、平成27年現在159橋の道路橋を管理しています。これらの橋梁の老朽化に対応するため、計画的かつ予防的な修繕へと転換し橋梁の長寿命化を図り維持更新費用の縮減と平準化を行うことを目的とします。



20年後、広川町が管理する道路橋の老朽化がここまで進みます。

長寿命化修繕計画の対象とする橋梁

全管理橋梁数	町道	合計
	159	159
うち計画の対象橋梁数(15m以上)	58	58
うちこれまでの計画策定橋梁数	0	0
うち平成28年度計画策定橋梁数	58	58

長寿命化修繕計画の対象：

- ・緊急輸送路に位置する橋梁
- ・桁下に道路がある橋梁
- ・市町村間を結ぶ路線に位置する橋梁
- ・国道、主要地方道へのアクセス路線に位置する橋梁

長寿命化修繕計画による効果

長寿命化修繕計画を策定する15m以上の58橋について、今後50年間の事業費を比較すると、従来の対症療法型が41億円に対し、長寿命化修繕計画の実施による予防保全型が12億円となり、コスト縮減効果は29億円となる。

